

収入増や活躍の場の拡大、能力向上などを目的に副業・兼業をする人が増えています。実践している方に、本業と両立させるコツやメリットをインタビューします。



# 人生を広げる Side Business



© 麦 - stock.adobe.com

第2回

## 時代の変化に対応できる 働き方のポートフォリオを組む



本業

医師(診療所院長、島根大学客員教授など)

医師として患者の診療をしながら、積み重ねてきた臨床経験から、学会や医療機器関連企業の活動のヒントを得る



副業

医療機器メーカー  
代表取締役

VRを取り入れたリハビリテーションを推奨するため、医療機器関連企業を立ち上げる。医師の視点から、現場に活かされる機器を追求

達成すべき目的は変えず  
主となる職業を変えていく

循環器内科医としてキャリアをスタートした原正彦さん。現在は遠隔診療の診療所院長、島根大学などの客員教授、一般社団法人日本臨床研究学会代表理事を務めるほか、医療機器関連のベンチャー企業を複数起業し経営しています。

「本業とか副業という意識はありません。時代の変化やフェーズによって、どの事業が主になるのか流動的に変わります。これからは時代の変化に合わせて、どの事業が主になっていようように働き方のポートフォリオを組んでおいたほうが生きやすい。一つの職業を選んだらそれに注力しなければいけないとか、変えてはいけないというマインドは邪魔になります。季節だとかライブイベントによつ

て、主になる職業を変えていくのもいいと思います」

たとえば、複数の事業を並行して行っている会社は普通であり、時代の変化やフェーズに対応して事業ごとの力の入れ方を変えています。原さんの働き方は、個人でそれをしていくことになります。いろいろなことをやっているように見えますが、すべては「患者さんを治して自宅に帰し社会復帰させる」ことが目的です。そのためにはどうしたらいいかを考え、必要なことを事業化してきたと話します。

**成果報酬型の  
リハビリセンターを開設**

原さんは心筋梗塞などの患者を診ているなかで、脳梗塞などを併発するケースが多いことに気づき、心臓に対する治療だけでは患者の社会復帰という目的を達成できない、リハビリテー



原正彦さん

2015年、大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学で学位取得後、アメリカ心臓協会とアメリカ心臓病学会の若手研究員奨励賞を3年連続で受賞。現在は医師と学会の代表、ベンチャー企業の代表などを務める

文/堀切孝治

## 両立のポイント

### 1 柱となる目的を明確化

時代の変化やフェーズによって主となる事業・職業は変わるが、「何のためにそれをするのか」という、根っここのところにある目的は、はっきりさせておくことが大切

### 2 好きなこと、やりたいことだけをする

複数の仕事を同時にするのだから忙しくなるのは当たり前。それでも、好きなことであれば苦にはならず、楽しめる

### 3 配偶者などの家族の理解・協力は得ておく

組織内のみんなに兼業することを理解してもらう必要はないが、配偶者などの家族からは理解・協力を得たほうがいい

ションも行わなければいけないと認識したそうです。

「リハビリにVR(仮想現実)を取り入れることで治療効果を上げられるのではないか」と考え、2016年に株式会社mediVRを立ち上げ、医療機器「mediVRカグラ」を開発しました。

「カグラの研究開発・効果検証では僕が経営するクリニックがフィールドとなり、論文作成には日本臨床研究学会のスタッフや場を活用。論文を発表することでカグラの信頼性が得られ、

宣伝・広告効果も生んでいます。島根大学の地域包括ケア教育研究センターでは、これからの地域の高齢者に対するリハビリのあり方について話ができる。目的達成のためにすべてがつながり、メリットばかりです」

そんな自身の働き方の背景について、次のように説明します。「現在は、能力・技術・アイデアのある人はどんどん起業する時代になっています。やりたいことを気軽に起業できる環境が整ってきたといえるでしょう。パートナーを集めたり、起業の

ためのノウハウを得たりするのもインターネット上でできますし、AI(人工知能)やVRも手軽に実装できます」

研究をしつつ、複数の企業を経営することの苦は感じていないそうです。「僕がやっているのは好きなことだけ。さまざまな問題にぶつかりますが、やりたいことをやっているのです。苦ではありませんし、問題をクリアした先には達成感のある結果が待っています」

mediVRは昨年11月、大阪府で成果報酬型の自費診療のリハビリテーションセンターをオープンしました。これは患者個々の目標を設定し、達成した分だけ報酬をもらうというシステムで、今年8月には東京都でも開院する予定です。

原さんは副業について、表面的にはOKでも、実際にやると差別されるような組織もあり、自分の実力と環境に注意して判断・選択することが重要。ただし、配偶者などの家族の理解は得ておいたほうがいいでしょう」と締めくくりました。